

〔論 説〕

CUC 選択語学科目の授業実践報告

—遠隔環境におけるコミュニケーション実践と ICT の有効活用—

山 内 真 理
菅 原 典 子
村 上 眞 紀
吉 田 由 美 子
日 高 美 奈 子

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年度は全教員が遠隔授業に対応することを求められた。本学の語学教員は、専任・非常勤の教員86名をメンバーとする語学教員用チーム（Microsoft Teams）において情報交換や教材共有を行いながら、授業を進めつつ試行錯誤を重ね、遠隔環境での授業運営とそこで必要になるICT活用のノウハウを蓄積してきた。2021年度は、活動制約付きの対面授業への対応、さらに学期途中での授業実施方針の変更にも対応することが求められている。本稿では、基盤教育機構で全学部向けに提供している選択語学科目を中心に、2020年度の遠隔授業を振り返り、同時双方向型の遠隔授業でどのようにICTを活用し、音声学習・スピーキング活動・コミュニケーション実践を実現したか、その様々な工夫を紹介する。さらに、そうしたICTを活用した授業活動・授業設計について、状況の変化への対応可能性の点から検討を加える。

2. 授業概要

本論で振り返る授業は、基盤教育機構で提供されている選択語学科目のうち、基礎英語Ⅰ（菅原）、基礎英語Ⅱ（山内）、中級英語Ⅰ（村上）、中級英語Ⅱ（吉田）、スペイン語Ⅱ（日高）の5科目である。

表1に示すように、内容の点では、それぞれの到達目標に応じた科目独自の特徴はあるが、コミュニケーション実践や音声処理を重視しているという共通点がある。また、選択科目であることから、習熟度にばらつきがあり、学習意欲が（必修科目に比べて）全体的に高いという点でも共通している。

表1の受講人数について補足しておく。本稿では2020年の一部科目のみ取り上げているが、一般に、外国語の基礎科目は履修希望者が多く、2021年度春学期も、表1の基礎英語Ⅰだけでなく、基礎中国語会話Ⅰ、基礎中国語文法Ⅰ、ドイツ語Ⅰ、スペイン語Ⅰ、韓国語Ⅰで抽選が実施されている。特に基礎英語Ⅰと基礎中国語文法Ⅰの履修希望者は定員の2倍を超えていた。選択科目は一律でそれぞれ1クラスずつしか開講されていないが、基盤教育機構が開始されて数年がたち、学生のニーズを把握し、対応する必要があると考

表1 受講人数・受講生の特徴・到達目標

科目情報	受講生の特徴	到達目標
基礎英語Ⅰ 秋学期 (菅原) 29名	<ul style="list-style-type: none"> ● 習熟度はバラバラではあるが、それぞれが興味深く、真摯に授業に参加してくれる。 ● 大学で英語をしっかり学びたいというモチベーションの高い学生がクラスのほとんどを占め、非常に授業に活気がある。 	<p>①日常生活や文化、職業などの題材を使いながら、英語の基礎固めを行う。</p> <p>②読む、書く、聞く、話すという四技能をバランスよく習得し、積極的かつ楽しくコミュニケーションできるようにすることを目指す。</p> <p>③基礎固めをすることで外部検定への導入を図る。</p>
基礎英語Ⅱ 秋学期 (山内) 24名	<ul style="list-style-type: none"> ● プレイスメントを行わないため語彙・文法知識にはばらつきがある。 ● 大半の学生はリスニングの基礎訓練が不十分であり、英語でのコミュニケーションの経験が乏しいため、コミュニケーションスキルや音声処理能力については、クラス共通のものを設定できる。 ● 選択科目である分、学習意欲が高い学生が多い。 ● 特に親しくない人とのコミュニケーション活動に対する不安が高い。 	<p>【ホームステイの英会話】</p> <p>①言語は音声抜きでは学べないことを自覚し、音声面を強化する。</p> <p>②特に初対面の人と英語でコミュニケーションができるスキルと態度を身につける。</p> <p>③外国語の学び方を身につける。</p>
中級英語Ⅰ 春学期 (村上) 29名	<ul style="list-style-type: none"> ● プレイスメントテストを行わないため、習熟度のレベルにはばらつきがある。 ● 選択授業のため、英語を習得しようという意欲は高い ● 学部・学年混在のため、初めての会話・グループワークには、より緊張感がある 	<p>【Joyful Speaking】</p> <p>①興味を持って英語を聴く。</p> <p>②自ら英語を習得する力をつける。</p> <p>③習得した英語力を身の周りで実践する(vSquareなど)。</p>
中級英語Ⅱ 秋学期 (吉田) 23名	<ul style="list-style-type: none"> ● 学部・学年が混在しており、英語力も一定ではない。 ● ディズニーの『美女と野獣』が題材なので、ディズニーが好きだということでは共通している。 ● 日ごろから映画を観たり、音楽を聴く機会が多いということも特徴として挙げられる。 ● 発音やリスニング力をアップしたいという希望が多い。 	<p>【アニメーション映画を利用した英語学習】</p> <p>①英語の表現や言い回しを学び、運用能力と応用力を身につける。</p> <p>②英語音声を正確に聞き取り、自分でも発音することができる。</p> <p>③時代背景や文化を知ることで、教養を深め、内容理解の力を高める。</p>
スペイン語Ⅱ 秋学期 (日高) 24名	<ul style="list-style-type: none"> ● スペイン語をはじめて学ぶ者、「スペイン語Ⅰ」の既習者、継承語としてスペイン語を話す者が混在。 ● 上級生の中には単位の埋め合わせとして履修する学生も見受けられるが、1、2年生はスペイン語学習に対する動機付けが高く、スペイン語圏の国に関心がある、サッカーを通してスペイン語にも興味を持った、英語以外の外国語に挑戦したいなど多岐にわたる。 ● 学部も学年も異なる学生が混在しているため、小さなグループにわけて話しやすい環境を用意する必要がある。 	<p>【旅行会話】</p> <p>①グループワークを通じてコミュニケーション能力をつける。</p> <p>②スペインの飲食店(バル、カフェテリア、レストラン)で注文ができる。</p> <p>③スペイン各地の郷土料理を通じてスペイン文化の多様性を知る。</p> <p>④好奇心、向上心呼び覚ます。</p> <p>⑤外国語学習への不安を軽減させ、自信をつける。</p>

える。

以下では科目ごとに、授業の進め方と遠隔授業において活用したツール、そしてコミュニケーション実践や音声処理の訓練にとって重要になるグループワークの工夫を中心に振り返る。

3. 授業の進め方および授業の工夫

ここでは、基礎英語Ⅰ（3.1）、基礎英語Ⅱ（3.2）、中級英語Ⅰ（3.3）、中級英語Ⅱ（3.4）、スペイン語Ⅱ（3.5）の順で、2020年度の実践報告を行う。

3.1 基礎英語Ⅰ（2020年度秋学期）

2節で触れたように（表1）、この授業では、日常生活や文化、職業などの題材を用いて英語の基礎固めを行うことを目標としている。4技能をバランスよく学び、積極的かつ楽しくコミュニケーションできるようになることを目指すと同時に、英検やTOEICなどに挑戦するための土台作りも行う。毎回の授業の流れを表2に示す。テキストを利用した基礎（音声・語彙・文法）の徹底と、それを使ったコミュニケーション実践を組み合わせた形である。

表2 基礎英語Ⅰ 授業の流れ

	活動
事前事後課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定したテキストを利用し、音声面、語彙、文法知識を確認する課題に各自で取り組む。 ● コミュニケーション実践のためにvSquare課題を活用する。
授業時の活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前課題の内容確認・定着のための説明を行い、質問に対応する。 ● Teams会議を利用して会話練習：テキストでの表現ならびに日常で使える会話表現の定着を図る。 ● ある程度まとまりのある文章のリーディングや、洋楽を利用したリスニング等を行い、授業展開に変化を持たせる。

この授業は、開講以来毎学期、抽選が必要になるほど受講希望者が多く、また半期完結の授業であるため「通年で受講できるようにしてほしい」「翌年度も引き続き受講したい」という声が毎学期非常に多く聞かれる。英語の基礎固め・基礎からのコミュニケーション実践に対する本学学生のニーズの高さが伺える。

表3に利用ツールをまとめている。Google Forms, vSquare課題, 個別フィードバックについて補足を加えておく。

- 毎回の個別フィードバック：教員の負担は大きいですが、毎回必ず個別にフィードバックを行った。コロナ禍でキャンパスにも行けず、友人とも会えない中で、不安いっぱいオンライン授業だったため、心の声を書いてくる学生が散見された。一人一人にフィードバックしながら励ました。このようなきめ細やかなコミュニケーションはオンラインならではと言える。
- Google Forms：テキストで文法や音声のポイント、様々な表現を一通り学んだ上で、

表3 基礎英語Ⅰ 利用ツール

利用ツール		活動
Teams	「一般」チャンネル	ビデオ会議, チャット: 授業全般, 学生発言, グループプレゼン, 個人プレゼン, 質問対応など チャット: 板書, 図示, 解説, グループプレゼン, 個人プレゼン, 教室でのオンライン受講者とのやりとり, 課題指示, 個別フィードバック
	ペアワーク用チャンネル	ビデオ会議, チャット: 2人での会話練習, プレゼン準備, 内容把握など
	グループワーク用チャンネル	ビデオ会議, チャット: 3~4人での会話練習, プレゼン準備, 内容把握など
	ホワイトボード	板書, 図示, 解説
	vSquare	会話実践課題
Google Forms		テキストの到達度確認: リスニングも含む
CUC PORTAL		課題指示, 課題提出: リスニング, スピーキング

各 Unit ごとに到達度を確認するために Google Forms のクイズを課した。自分の弱点を把握し、復習のポイントをつかめるように作成しており、「小刻みに到達度を確認してくれてありがたかった」との学生の声が聞かれている。オンラインの自動採点クイズは、受講生の習熟度にばらつきがあるクラスでの基礎確認には非常に重宝する。

- vSquare 課題: テキストで扱った表現をベースに、学期中に数回を課した。vSquare の利用に際しては、事前に vSquare のスタッフや国際センターの方と打ち合わせをして授業課題に対応していただいた。ネイティブスピーカーと話すことに対するハードルが非常に高い受講生が多く、そうした学生には授業課題のようなきっかけが必要である。課題として参加して、回を重ねるごとに緊張が徐々に解かれ、英語でのコミュニケーションの楽しさに気づく。課題は段階を踏んでレベルを上げていく形にしており、最終的にはフリートークができるようになった。以下に vSquare 課題(クリスマスについてのフリートークを行い、その内容を文章で提出)の解答例を挙げる。

学生 A さんの解答例:

I asked Irina. She has no plans for Christmas every year. Now she is far away from her family. However, I celebrate Christmas with my family every year. Her family cooks many dishes on Christmas evenings. For example, make salads, roast chicken, and bake cakes. After that, they watch Christmas TV. At night, they go to church. After going to church, they all have dinner. She's trying to buy what she wants as a Christmas present on her own road bike.

学生 B さんの解答例:

Does your country have a culture of celebrating Christmas?

Irina: Yes.

John: Yes.

Are you planning to have a party for Christmas?

John: He will not have a party because he plans to move.

Does your country have a culture of giving presents for Christmas?

Irina: Yes.

John: Yes.

Is there Santa in your country?

John: Yes. Australia is in the Southern Hemisphere and Christmas time is summer. Therefore, Santa seems to come on a surfboard.

4技能を使うコミュニケーション実践を行うには、遠隔環境ではビデオ会議を使ったペアワーク・グループワークが必須になる。遠隔環境でのグループワークを円滑に進め、学習効果を高めるため、下記の配慮・工夫を行った。

1. グループピング：1つのグループの人数が多すぎると積極的に参加しない学生が出てくる。最大でも4人で行うようグループピングした。
2. チャンネルの巡回：グループワークのチャンネルを巡回して、発音チェックや参加の積極性を確認したり、質問対応などを行った。グループでは、少人数のため、学生も発言しやすく、コミュニケーションが取りやすい。
3. チャット、ホワイトボード：遠隔環境では、板書代わりに積極的に活用した。「板書」は理解を深めるのに役立つ。特にホワイトボードは、書き込む過程もわかり色分けもできるので学生も見ていて楽しいようである。
4. グループプレゼン：会話練習の後、ランダムに数グループでプレゼンを実施した。発表者以外が受け身にならないように、毎回、発表者以外の全員にチャット欄にコメントを入力させた。それぞれのUnitで発音のポイントを解説しているので、どこに気をつけて聞けばよいか分かりやすく、積極的にコメントしてくれた。

学生の反応の一部を紹介する。ここまで述べてきた、丁寧な基礎がため、会話練習、vSquareでの実践、個別フィードバックなどの配慮や、それらを組み合わせた授業構成が奏功していることが伺える。

- テキストにとどまらず、実際にNativeと会話したり、洋楽などの学習もできたので、授業にメリハリがあって、楽しかった。
- テキストがあったので、毎回のポイントがつかみやすく、grammarも含めて、しっかりと学習できた。
- 各UnitごとのFormsで到達度が確認できたのがよかった。
- 発音のポイントや会話練習、画面上ではあるが、みんなの前でのプレゼンなど、始めは緊張したが、一生懸命頑張れた。
- 毎回、Feedbackがあり、うれしかった。
- 個人チャットでの質問にも即座に先生が答えてくださり、うれしかった。
- vSquareの課題で、Nativeと話すのがとても緊張したが、やさしく丁寧に会話をつないでくれたので、だんだん緊張がほぐれ、楽しくできた。英語でコミュニケーションすることが、こんなに楽しいとわかった。ベラルーシやオーストラリアの様

子が聞けて、楽しかった。

- 毎回リアルタイム双方向型での授業だったので、クラスメイトとコミュニケーションが取れたり、グループワークができたりして、毎回の授業が楽しみだった。
- 学部によっては、語学が必修ではないので、もっと英語を勉強できるよう授業を増やしてほしい。同じ先生の科目も履修できるようにしてほしい。通年の科目にしてほしい。抽選ではなく、希望した全員が履修できるようにしてほしい。

最後に、この遠隔授業での活動設計と ICT 活用について、対面授業や授業方式の変更への適応可能性をまとめておく。

- (1) Teams の活用 (ビデオ会議, チャット) : コロナ禍で、対面授業においてはグループワークなどが難しいが、Teams を活用することで、グループワークも積極的に取り入れられる。
- (2) Google Forms の活用 : 対面でもオンラインでも、非常に重宝する。他大学でもアレンジして利用できる点も非常に便利である。自動採点, フィードバックができるので解説もしやすい。
- (3) vSquare の活用 : 実際にネイティブスピーカーとコミュニケーションできる機会を与えるのは重要である。キャンパスが利用可能になれば、オンライン環境の vSquare に加えて対面環境の iSquare も利用でき、実践練習機会の選択肢が増える。

3.2 基礎英語Ⅱ : ホームステイの英会話 (2020 年度秋学期)

この授業では、①音声面の強化、②初対面の人とも英語でコミュニケーションができるスキルと態度の養成、そして③外国語の学び方を身につけることを目標としている。これらはホームステイの状況を語学力向上に活かすためにも重要であるが、山内が出会ってきた大学生は語彙力・文法知識の面では差が大きくても、この3点が共通して弱い。非英語選考の大学生はリスニングの基礎訓練は概して不十分であり、英語でのコミュニケーションの経験が乏しく、全般的にコミュニケーション活動に対する不安が高い。また「学び方を身につける」という目標は、習熟度のばらつきのあるクラスでは受講生の意識づけとしても重要だと考える。

毎回の授業は、表4に示すように授業時間に行うグループ会話実践を中心として、そのための事前課題に取り組む形とした。VOA 動画を用いた自動採点式フィードバック付きクイズでの事前学習は目標①と目標③に対応している。Duolingo を用いた自習も、目標①と目標③に対応しており、各自のペースで行う、自分の習熟度に合わせた、音声面を含めた基礎練習として課した。授業活動のうち、洋楽リスニングはリズム・音声変化を明示的・集中的に学習するもの(目標①)で、ペア/グループワークでは会話練習・パターン練習を行い(目標②)、リアクションペーパーとそれに対するフィードバックを通じて学習に自覚的になってもらうことを意図した(目標③)。リアクションペーパーは、通常の対面授業時の観察の代わりとしても導入したが、個々の学習状況や意識を知る上では授業時の観察に勝る部分もあった。

図1がVOA動画を利用したクイズ1回分の一部である。動画を見ながら解答ができ、

表 4 基礎英語Ⅱ 授業の流れ

授業内外	活動
事前課題	VOA クイズ： ・VOA Let's Learn English Level 1（会話主体の動画教材）を利用：毎回動画 2 本分 ・会話実践に必要な語彙・文法知識の確認（解説図つき） ・テーマに即した自己表現のヒント
自習	Duolingo を利用した各自のベースでの学習 ・知識面でのばらつきへの対応：最初のプレイスメントで、どこからチャレンジできるかが決まる。 ・音声処理の基礎訓練：例文全てに音声がついており、単語レベルで意味・音が確認できる。スピーキング・リスニング問題もあり、「ストーリー」が加わって一層利用の幅が広がった。
授業時の活動	・歌を用いたリスニング活動：音声処理の基礎 ・クイズの結果も踏まえた語彙文法の復習・練習・説明 ・ペア／グループワーク：パターン練習・動画のテーマに即したグループ会話 ・リアクションペーパー

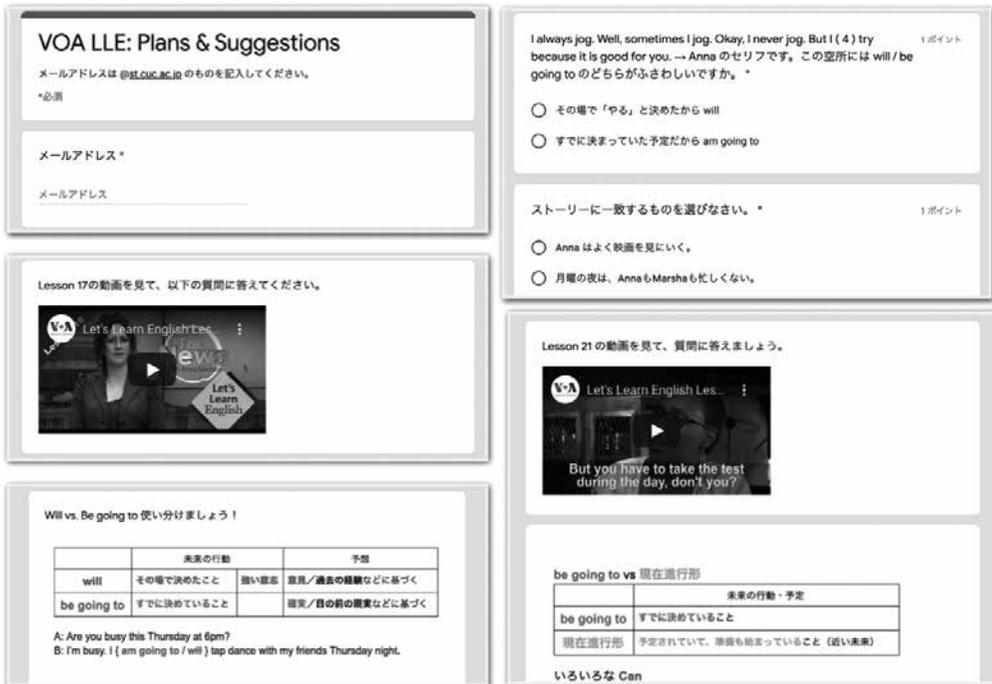


図 1 自動採点式 VOA クイズ #7 (L17 と L21 を利用)

「テスト」としてのクイズではないので、語彙文法の解説図なども入れてある。回答送信後、採点結果とフィードバックが確認できるが、回答送信前にも必要に応じてポイントの学習ができるように作成した。

利用したツールを表5にまとめる。Forms, Slides, Docs を含めて Google サービスを選んだのはこれらを長年教材作成に利用してきたからである。個人的にはフォイルをダウ

表5 基礎英語Ⅱ 利用ツール

利用ツール		活動
Teams	一般チャンネル	授業予定, 解説提示, 質疑応答, 「課題」機能
	グループワーク用チャンネル	10グループ分のチャンネルを用意し, ペアワークとグループワークに対応。
	フィードバック用チャンネル	リアクションペーパーのコメントや質問を共有し, それについての全体的なフィードバックを加える。
Google	Forms	<ul style="list-style-type: none"> ・VOA クイズ: ポイント解説・振り返りの質問付き ・語彙文法クイズ: 復習が必要な項目をピックアップ ・リアクションペーパー: 毎回の授業の振り返り・質問等
	Slides	語彙文法解説・グループワークの指示など: ・スライドのリンクをチャンネルのチャットに貼る ・授業時にスライドを使って説明した部分は復習用動画として授業後にリンクを貼る。
	Docs	主に洋楽リスニングのワークシートを利用 (閲覧のみ)。自分の解答と, 教員の解説を聞きながらのメモは紙のノートを使うよう指示 (オンラインクイズ等の解説も紙のノートにまとめさせた)
Kahoot!		語彙文法クイズ: 授業内の全体活動
Duolingo		音声つき語彙文法学習・リーディング・リスニング・発音練習: 自分の習熟度に合わせた項目の学習。毎週の最低量 (100XP) のみ指定。

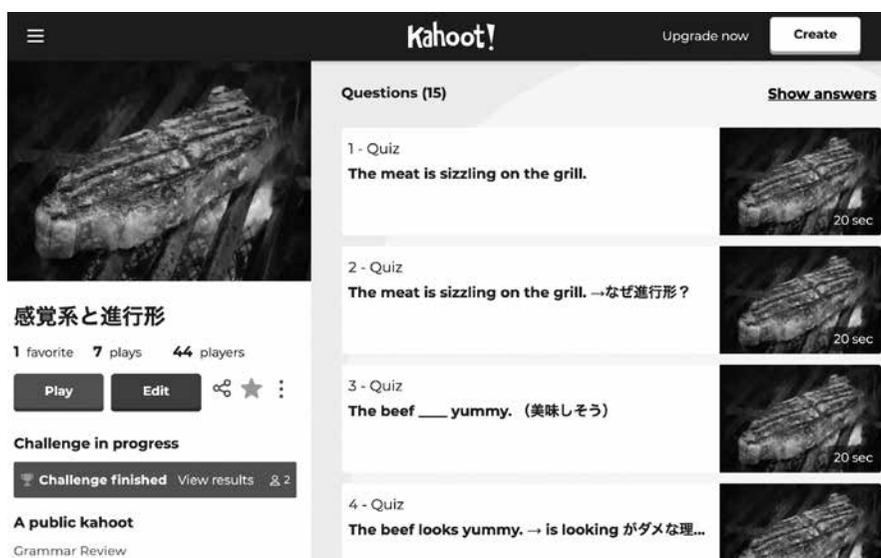


図2 感覚動詞で進行形の用法を整理するための Kahoot

ンロード・アップロードなしで配布できることも利点だと感じる。

Forms を利用したオンラインクイズのメリットの一つは, 受講生の理解度が可視化されることである。効率的に理解が不十分なポイントをピックアップして, 復習用の教材を用意することができる。復習用教材には, Forms の他に Kahoot も活用した (図2)。遠隔授業でも「全体」活動が行え, メリハリをつけるのにも非常に重宝する。

洋楽リスニングの復習も含めて、耳慣らし・口慣らしは、結局は自分が必要なだけ個人練習をするしかない。VOA 動画は、クイズで内容を確認したら「なりきりシャドーイング」でリズムやイントネーションも真似する、Duolingo の自習課題はスピーキング問題以外でも例文を口に出す、といった学習法のアドバイスを毎回与えた。そして、授業時の会話練習の際は「インタラクションの練習だけは相手がいらないとできない」ことを強調し、授業時のペア／グループ・ワークの機会を有効活用するよう意識づけた。

とはいえ、ビデオ会議でのグループワークは環境に慣れるまでは、対面時よりも対話が行いにくい。外国語不安が高い学習者は言葉に詰まったりするとそのまま黙ってしまうことも多く、カメラオフの状態で黙ってしまうと相手はどうしようもなくなってしまう。最初の段階ではこの点を強調し「少なくとも何かは声を出すように」と指示した。その他、ビデオ会議でのグループワークを成立させ、黙り込む学生が出ないように、以下のような工夫を行った。

- タスクの指示、およびそのタスクでの目標を明確に分かりやすく提示する。
- サンプル英文やモデル会話を提示する。
- 基本のパターン練習の後にフリー会話といった段階をふむ。
- リアクション・英語に詰まった時や聞き返すときの表現も指導する。
- グループワークを録画させる。

以上、この授業では、音声面の基礎訓練を行いつつ、グループワークでの実践を重ねることで（親しくない人と）英語で話すことに対する不安を解消し、各自で必要な語彙文法学習・音声学習に取り組み、それらの学習活動を振り返る癖をつけることで「学び方」を身につけていけるように学習活動を組み立てた。以下に学生の反応の一部を紹介する。グループワークについては最初の頃の緊張や間違いを恐れる気持ちがなくなったという声が多かったが（そのうち3件のみ紹介）、グループワークへの自分の取り組み方を含めて、自分の学習プロセスを自覚しモニタリングできていることが伺えるコメントも多く、授業の目標は概ね達成できたと思われる。

- 最初の頃は受け身だったり間違えるのが怖くて少し無言になりつつあったけれど、だんだんたくさん話せるようになりました
- やっていくうちに間違えた時の恥ずかしさがなくなってきて分からなくても黙るのではなくなんとなくでも堂々と話せるようになった
- 間違っても恐れずに話してそこで修正すればいいんだと気づくことが出来て良かったです
- この講義で英語を学ぶようになってから学んだことを誰かと一緒に実践してみたいと思えるようになりました。グループワークはそのいい機会でもあったのでグループの中で話すことができたことは自信にもつながりました。
- 相手に伝わりやすいように意識して取り組みました。最初はグループワークなんて、思っていました但最终的にはコミュニケーションを取ることがとても楽しくなりました。

- 質問だけでなく、相手の解答に対して更に質問できるようになった。恥ずかしいと考えることが受講前は強かったが、現在はあまり感じなくなっている。
- 元々、たどたどしくても話せる自信があったのですが、いくら文法や単語を覚えても、咄嗟に出てこないことが多々あり、それからはすぐに別の言い方に切り替えることも意識に入れるようになりました。
- 英語を上達させるために自分から話を振るようになった。
- この講義を受けてから英語を知識として勉強するというよりも実際に自分が海外の人と話すときにはどう話そうかと考えながら学ぼうという意識に変わってくるようになりました。そのためとても楽しく英語を学ぶことができました。
- 授業で学んだことをすぐにグループで実践してみることができるので記憶に残りやすし、難しかったなと感じる部分も分かりやすくなって、だれかと英語で話すことは英語を学ぶ上でとても重要であることに気づきました。
- もっと英語を話したい、覚えたフレーズをもっと言いたいと思うようになりました
- 授業の中で行った kahoot は他の人たちに全く追いつくことができなかつたのですがとても楽しかったです。楽しみながら英語を学ぶことができるという事を知ることができました。
- 英語を身につけるには、1日30分スピーキングや単語練習が必要だと知った。また、趣味で洋楽を聞く習慣が付いたときに英語の楽しさを実感した。
- 英語を使う機会がなくなると忘れていくと思うので積極的に使っていきたいと思います。いとこがアメリカと沖縄のハーフで両方話せるのでいとこと沢山電話して英語を話そうと思います。
- 英語の学習は毎日続けていけば、どんどんレベルが上がり、話せるようになるのではないかと思った。
- 以前一般の外国人と話す機会があったのですが、その時よりも大分落ち着いて話す自信が出てきました。

最後に、ここで見てきた遠隔環境向けの授業設計が、活動制限のある対面授業を含め、授業方式の変更に対応できるかどうかを見ておく。

- (1) VOA クイズ：通常の対面授業でも、オンデマンド方式でも柔軟に使える。2020年度秋学期と同様に事前学習として課すこともでき、対面授業時間内に取り組ませることも可能である。活動制限ありの対面環境では、授業中の発話は制限し、その分音声英語に触れる機会として授業時間内のVOAクイズを増やすなどの調整が必要だろう。
- (2) Duolingoでの自主学習：どの授業方式でも利用可能である。授業内タスクに要する時間の個人差が大きい場合は、時間調整にも重宝する。
- (3) 歌を用いたりスニング活動：コロナ以前は紙版のワークシートを利用していたが、ポイント解説のメモも含めて1冊のノートに書かせる方がむしろいいのではないかと考えるようになった。2021年度春学期の対面授業でも閲覧用のDocをTeamsで共有する形で続けている。音源を聴いて空所を埋め、その後、正解と聞き取りの

ポイントの解説を聞く，という流れが必要なので，オンデマンド方式の場合は提示法を変更する必要がある。

- (4) 語彙文法の復習・練習・説明：Forms での練習や Slides での説明はどの授業方式でも使える。ただし，対面授業の場合は板書の方が楽ではある。
- (5) ペア／グループワーク：通常の対面授業であれば問題ないが，活動制限ありの対面授業では，遠隔でのライブ授業のようなグループワークは行えない。テキストチャットでのグループワークに変えたり，発話に関わる活動は事前事後課題（Flipgrid 利用など）にするといった調整が必要である。
- (6) リアクションペーパー：Forms を使った振り返り活動も，それに対する全体フィードバックを Teams で共有するというやり方も，どの授業方式でも行うことができる。

3.3 科目名：中級英語 I（2020 年度春学期）

この授業もコミュニケーション実践や音声処理を重視している（表 1）。表 6 に示すように，この授業に特徴的な活動の一つとして「興味を持って」英語を聴く，そして「自ら学ぶ」力を身につけるという目標に則した「継続リスニング」が挙げられる。この課題（活動）では，各学生が 5 種類の中から自分が取り組むリスニング素材を選択でき，自分のペースで学習する。この「継続リスニング」に基づいた授業活動は，習熟度のばらつきにも対応できる活動となっている。コミュニケーション実践は，Teams でのビデオ会議での会話練習やプレゼン，Flipgrid の利用（後述），vSquare の講師招待と，様々な活動機会が組み込まれている。

表 6 中級英語 I 授業の流れ

授業内外	活動
事前学習課題・自習	各自のペースで継続リスニング ● 選択肢：YouTube 動画（ビル・ゲイツ，アリアナ・グランデ，コビー・ブライアントのインタビュー，ビル・ゲイツのクイズショー）・British Council Learning English 音声教材「テーマパーク紹介」 ● 上記 5 種類から 1 つを選択し，PORTAL Web 課題で進捗報告と質問
授業時の活動例	● プレゼンテーション：①「継続リスニング」の好きな箇所（英語）について，それを選んだ理由や内容解説（日本語）をビデオ会議で発表 ② Flipgrid 動画（1 分以内）にまとめて投稿，クラスメートの投稿にレスポンス ● ワード・音声教材学習：①自己紹介・観光案内・レストラン会話の通訳技能訓練・応用練習・会話・レスポンス練習 ② Flipgrid に応用動画を投稿，クラスメートの投稿にレスポンス ● vSquare 講師招待：25 分間の時間制限内で（5 分×5 グループ）レストランでのおもてなしのロールプレイ（各チャンネルでメニューや BGM などの準備・会話練習・役割分担など 3 回連続で同じグループで活動）

表 7 に授業活動と利用ツールを示す。グループでの会話練習などは他の授業と同様にグループワーク用チャンネルでのビデオ会議を利用したが，通信環境上ビデオ会議の参加が難しい学生のためにチャットで会話練習のオプションも活用した（後述）。

ここで Flipgrid について簡単に説明しておく（図 3 も参照）。これは多人数で動画ベースのやりとりを行うためのツールであり（設定によってテキストでのコメントも可能），

表7 中級英語Ⅱ 利用ツール

利用ツール		活動
Teams	一般チャネル	チャット：講義・学生発言・質問対応 *通信制限のある学生対応 ビデオ会議：グループプレゼン・個人プレゼン
	グループワーク用チャネル	チャット・ビデオ会議：5~6グループで会話練習・プレゼン準備など
Microsoft Forms		プレゼンの評価（内容・話し方・楽しんでもらう・全体の印象）・投票
Flipgrid		既習箇所の動画作成・投稿・クラスメートの投稿にレスポンス

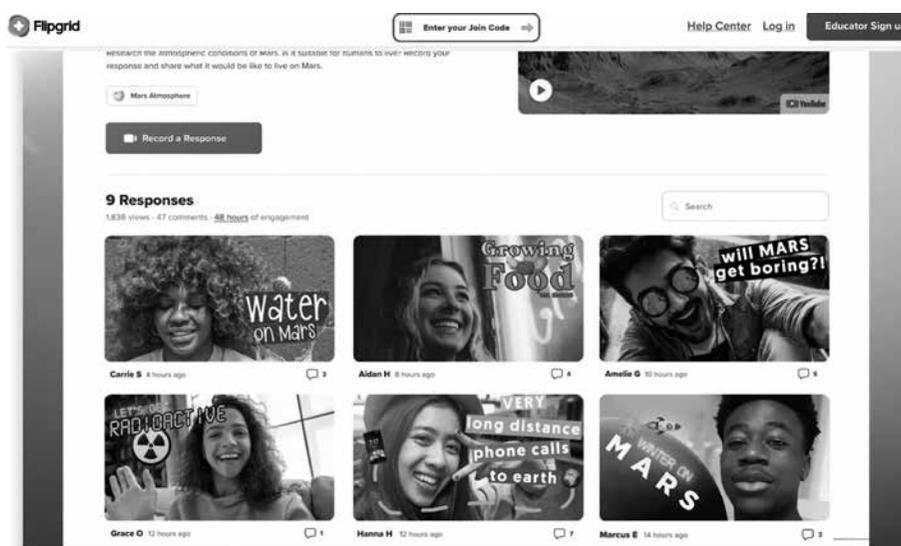


図3 Flipgridのトピックと動画レスポンスの様子 (<https://info.flipgrid.com/>)

動画撮影と投稿，クラスメートの動画の視聴，それに対するレスポンス動画の撮影と投稿が，1ヶ所で行える。Microsoft Teams と連携しているアプリケーションであり，あらかじめ cuc のメールアドレス等で対象学生を登録しておけば（学生登録のオプションは他にもある）学生がアカウントを作る必要はない。

Flipgrid 動画へのレスポンスの問題点として，特に女子の投稿が少なく同じ人にレスポンスが集中したことが挙げられる。「クラス全体に満遍なく」と促し，最終的には各人に6-7名のレスポンスが見られるようになった。最終回には閲覧数も14948に達し（第1回・第2回はそれぞれ6000閲覧程度），制限のある中でもクラス内のコミュニケーションがよく取れていたと言える。また，技術的にFlipgridが使えない学生もいた。最終的には全員使用可能になったが，「使えない」状態の学生に対しては，代替手段としてTeamsでの個人面談でのプレゼンを課した。

この授業では，グループワークでのコミュニケーションがメインになるが，学習意欲は高いものの，学部・学年が混在している分，初めての会話やグループワークでは，同一学部同学年のみのクラスに比べて緊張の度合いが高い。この点も配慮し，ビデオ会議でのコ

コミュニケーションを円滑に進めるために下記のような工夫を行った。

- グルーピング：チャット 3 名・ビデオ会議 4 名ほどの少人数が適当。
- グループワークの手順・語彙集（授業での学習箇所）：各チャンネルに貼り付け、それに沿って即ワークが開始できる。表 6 に示すように、vSquare の講師とのグループワークでも手順は明確にし、招待した講師とも十分に打ち合わせを行った。
- Let me go first./Let me go next./Sure, go ahead. を利用：自主的に順番を決めて会話を開始できる。
- リアクション表現を利用：他の人は学習したレスポンス表現で反応し、拍手や大声で盛りあげる。
- 教員の巡回：レスポンス・コメント・発音などを直接指導したり質問に対応した。
- 他の活動との関連：グループワークの後に全体会議に戻りプレゼンを行うなど、毎回のグループワークはその前後の活動との関連づけをはっきりさせた。
- チャットでのグループワーク：通信環境が十分でない学生への配慮が主目的だったが、学生が LINE などで慣れていることから、ビデオ会議とは別のメリットも明らかになった（他の人の発言も再利用しながら、より長い文や多様な表現へとアウトプットの幅が広がった）。チャットでのグループワークの様子を図 4 に挙げる（図は再履修クラスの事例だが、中級英語 I でも同様）。

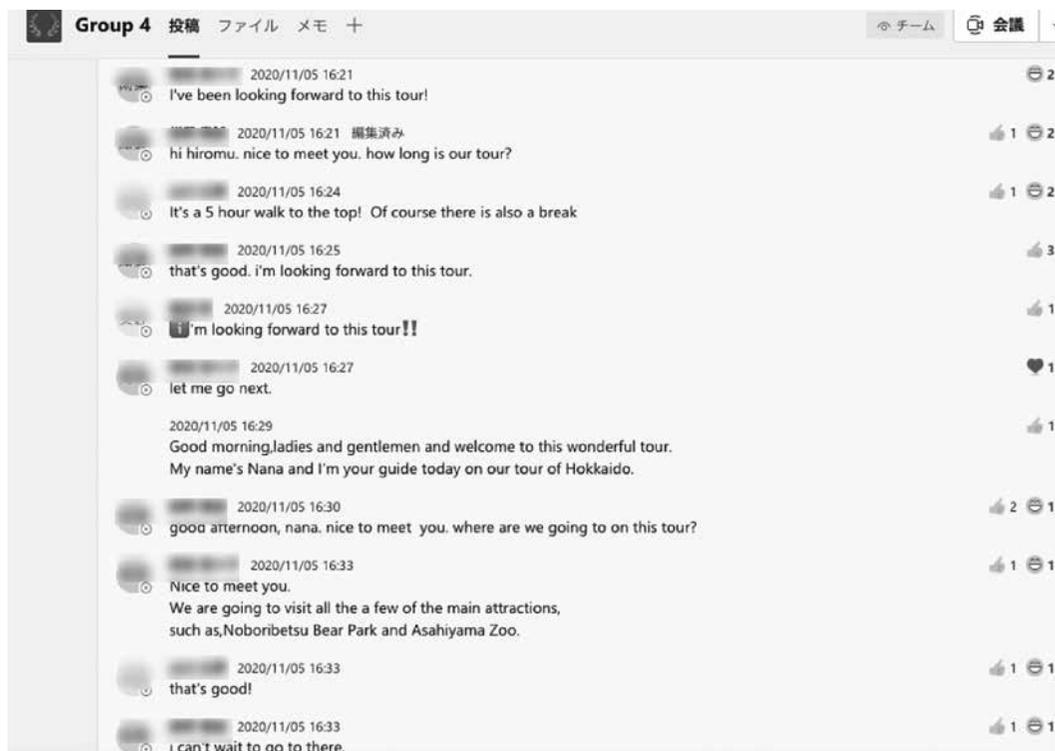


図 4 Teams チャットでのグループワーク

学生の反応の一部を紹介する。グループワークで他の人とやりとりができる授業という点で満足度が高く、様々な形でコミュニケーションを行うグループワークと音声学習や教員からのフィードバックが噛み合っ、学生が伸びを実感できていることが伺える。なお、大学の授業評価アンケートでも20名の回答があり概ね満足度は高かった。

- vSquare 外国人教師とのレストラン会話の「実践」が一番印象的だった。
- 授業でレスポンスを重視している理由がよくわかった。
- 自分の好きなアーティスト動画の継続的な学習とプレゼンが1番印象に残り、リスニング・翻訳・スピーキング練習で達成感につながった。
- グループワーク・プレゼン・Flipgrid でコミュニケーション・会話力向上した。
- 英語コミュニケーションで多くを学べた。会話時の笑顔は今後自然に出来ると思う。遠隔授業で不安だったがグループワークや動画撮影が多く新鮮で楽しかった。
- 難しいと感じたが、他の人とコミュニケーションをとれる授業やグループワークをする授業が他にはあまりなかったので楽しかった。
- 学年・学部を超えて、皆とたくさん話せて楽しかった。

最後に、これらの授業活動やICT利用が、対面授業でどの程度活用でき、授業方式の変更に対応できるかについて見ておく。

- (1) 学期を通じての動画・音声課題学習（継続リスニング）：対面授業では、1つの動画を皆で学習したり、動画ごとに複数のグループ学習として授業中に聴き進めることも行いやすい。学習後のプレゼンも可能である。自宅課題としては、遠隔環境で行ったそのままの形で行え、習熟度差が大きいクラスでも対応可能な活動である。全文ディクテーションと和訳、プレゼン箇所のみでの学習など、タスク面でも調整可能である。
- (2) Teams 会議でのプレゼンテーション：ソーシャルディスタンスなど制限のある対面授業では、ビデオ会議を使ったグループでの話し合い・会話練習・プレゼンは、座席移動も必要がなく効果的だと思われる。座席位置や身につけているものを英語で表現し、お互いを目視で確認、手を振って会話を始めるなど対面ならではの工夫も可能である
- (3) Flipgrid 動画作成・投稿・レスポンス：対面授業中に、ペアやグループと一緒に動画を撮影させたり、または自宅課題として既習箇所の応用などを課すことで反復練習（何度でも撮り直し可）によりスピーキング力が向上する。
- (4) Teams チャットでの発言・グループワーク：通信環境に左右されず、全体で共有できる伝達方法であり、対面授業時でも有効である。板書内容を教員がチャットに書き込めば、視力の悪い学生などへの対応にもなる。質問受付も随時可能であり、(制限なしの対面授業での)実際の会話や、Teams 会議での会話練習のウォームアップとしても利用できる。
- (5) Teams での個人面談：2020年度は1対1で行ったが、1度に2～3名でも対応できる。クラス全体が課題に取り組む間に、毎回数人ずつの対応で、双方向・少人数で

落ち着いて対話ができる。

3.4 中級英語Ⅱ：アニメーション映画を利用した英語学習（2020年度秋学期）

「中級英語Ⅱ」はアニメーション映画『美女と野獣』を題材としている点が特徴的な授業である。『美女と野獣』を教材として聞き取りや発音を学び、場面とともに英語表現を学び、さらに作品の時代背景や文化を知ることによって内容理解の力を高めることを目指す授業である。上述の授業と同様に受講生の所属や学年、英語力にはばらつきがあるが、ディズニーが好きだという共通点があり、映画や音楽を日ごろから楽しんでいる学生が多いという点も特徴的である（表1および後掲の受講生の反応も参照されたい）。

表8に授業の流れ、表9にツール利用をまとめる。『美女と野獣』から毎回取り上げる部分を中心として様々な角度から学習を深める設計となっており、グループでの対話練習に加えて、本文などの音声学習にはClass Notebookとイマーシブリーダーを組み合わせ活用している。通常の対面での授業では『美女と野獣』のDVDを見せていたが、遠隔授業では授業内での視聴が難しく、授業内に音声をどのように聴かせたらいいか、ということが最初の課題であった。これを解決するために考えついた代替活動がイマーシブリーダーを利用した音声学習である。

表8 中級英語Ⅱ 授業の流れ

授業内外	活動
授業時の活動例	<ul style="list-style-type: none"> ● 前回の『美女と野獣』の日本語訳を、学生数名の例を画面共有で表示して解説。今日の『美女と野獣』 ● 単語の発音、品詞、用例などの説明。 ● ミュージカル作品の紹介：時代背景、異文化理解、関連したニュース等も含む。 ● 映画の中のマザーグース・ギリシャ神話：音声学習や語源について学習する。 ● Tongue Twister: Class Notebookのコンテンツライブラリから、イマーシブリーダーを使って音声を何度も確認の上、クラスノートに録音。 ● 新出単語を使った文章をClass Notebookに入力。 ● 「今日の『美女と野獣』」：Class Notebookのコンテンツライブラリから、イマーシブリーダーを使って音声を聴き、コピーしてクラスノートに張り付け、日本語訳をつける。 ● 早く終わった場合は、音声を確認し録音する。 ● チャンルのグループで、訳の確認→対話練習を録音。
事後課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 「今日の『美女と野獣』」の仕上げ：Class Notebookのコンテンツライブラリから、イマーシブリーダーを使って音声を聴き、コピーしてクラスノートに張り付け、日本語訳をつける。 ● 音声を確認し録音する。

イマーシブリーダーは、Microsoft Azureのサービスの一つであるテキストの音声読み上げ機能であり（図5）、Teamsに実装されている。この授業では、Class Notebookの授業資料（コンテンツライブラリ）で提供される「今日の『美女と野獣』」やTongue Twisterについて、イマーシブリーダーを活用して音声を確認し、発音練習を行った。必要な箇所を好きに選んで繰り返し聴ける点が、語学学習には非常に重宝する。

ビデオ会議でグループワークを行う上では、他の授業と同様に練習課題の指示を明確にするために、口頭とチャンネルのチャットの両方で表示するようにし、また、積極的なワー

表9 中級英語Ⅱ 利用ツール

利用ツール		活動
Teams	一般チャンネル	チャット・ビデオ会議 Class Notebook ● コンテンツライブラリ：練習課題表示 ● 和訳・英訳入力 ● イマーシブリーダー機能 ● 音読録音 ● Dictation：音声録音→確認
	各回チャンネル	チャット：ファイルのアップロード、質疑応答、問題提示
	グループワーク用チャンネル	チャット・ビデオ会議：解答確認・対話練習録音・発音チェック
Microsoft	PowerPoint	授業予定・解説・課題指示・参考資料等
	Excel	グループ分け・表示

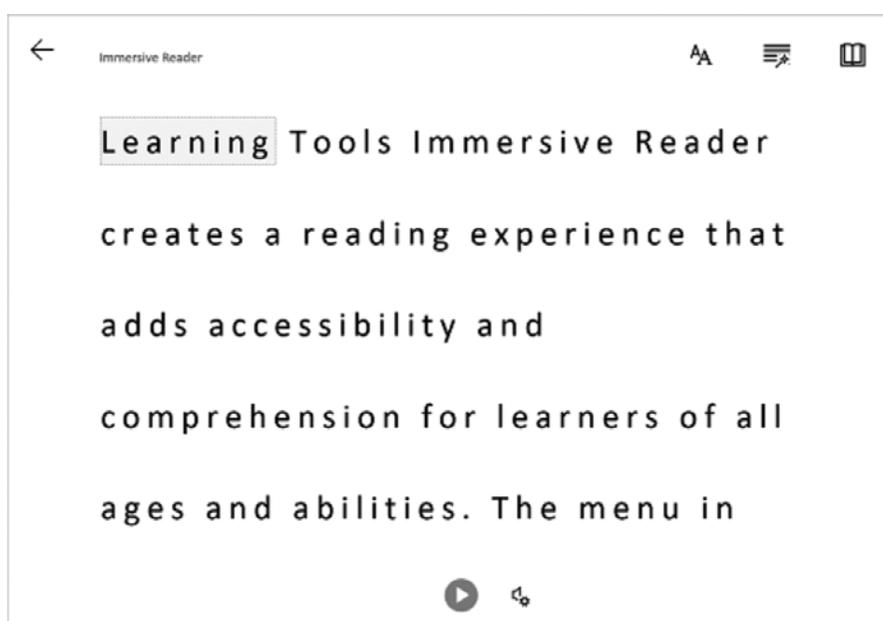


図5 イマーシブリーダー画面 (<https://docs.microsoft.com/>)

クへの参加を促すために、グループでの対話練習は録画を課した。なお、グルーピングをランダムにするためにスプレッドシート（Excel）を利用した。

以下に学生の反応を紹介する。興味のあるアニメーション映画の世界を多面的に学び、ツールも利用した丁寧な音声学習を行ったこと、グループワークでのクラスメートとの交流などが高い満足度につながっていることが分かる。

- ストーリーに沿った定型文だとしても話し言葉が中心であった実用的な文が数多く出てきていたためかなり興味深く楽しく授業に参加できたと思う。発音の指摘も細

かくわかりやすかったためきちんと復習して今後にも生かしていきたいと思う

- 美女と野獣を教材として活用して、色々な表現方法を知ることができました。
- 美女と野獣の翻訳に興味をもって受講しましたが、そのこと以外にも、ミュージカルや洋楽、ギリシャ神話のことなど様々なことを学べてとても面白かったです。また、もともと海外の文化が好きなのでとても楽しく講義を受けることが出来ました。
- 以前から、字幕で洋画を見るのは好きだったので、これからも続けていきたい。文法とかも大事だけどやはり話せるようになって外国人の友達を作りたいと思った。
- 英語に苦手意識を持っていたが、映画から学ぶことで楽しく学べた。また、グループワークなどで他のいろんな人とコミュニケーションが取れてよかった。
- 私は「美女と野獣」を見たことがなく、音楽だけ知っているだけだったが、この授業を通してどういう話なのかわかった。そして、英語を訳して自分自身で話を解釈していくためとても楽しかったです。
- 美女と野獣を英語で見ることを楽しみにしていたので残念でした。けれど、映画のセリフを文字で見て今まで知らなかった表現もたくさんあって楽しく講義を受けることが出来ました。今後も映画を英語でみて知らない表現を探してみたいと思います。秋学期ありがとうございました。
- 授業で美女と野獣の世界を学ぶことができたことが本当にうれしかったです。グループワークは最初はあまり話すことができませんでしたが何回もやっていくうちにしっかりコンタクトをとれるようになったので良かったです。また、今度は英語で日本語字幕なしで美女と野獣を目で見たいと思いました。
- 秋学期の間、本当にありがとうございました。英語が苦手な私にとって「美女と野獣」を通して英語に触れることはとても楽しかったです。この先も苦手を克服して英語を得意にしていけるように頑張ります。また、break time で見た動画の数々やグループワークを通して多くの人と話せた時間も楽しかったです。
- 私は、美女と野獣が大好きなのでこの講義を通じて英語の発音や訳など楽しく授業を受けることが出来ました。また、この講義はグループワークを行っていたので英語の授業を通して友達が出来て良かったです。
- 美女と野獣の文章の発音は難しかったが、少しでも身に付くことが出来たと思います。そして、より英語が好きになることが出来ました。また、グループワークを通じて色々な人とも関わることが出来ました。とても楽しい授業でした。

最後に、このような授業活動やツール利用が、対面授業でどの程度活用でき、授業方式の変更に対応できるかについて見ておく。上で触れたように、イマーシブリーダーを活用する音声学習は、遠隔授業の環境で『美女と野獣』を視聴させることが難しかったため、その代替活動して始まった。加えてYouTubeなども使用したが、対面授業であれば、教室内でDVDを使用することができるため映画視聴は楽に進められる。さらに、好きな部分の音声を繰り返し確認できるというイマーシブリーダーのメリットもそのまま活かせるだろう。Class Notebookに入力した内容は、もし教室内でPCがなければ実際のノートを使用し、音声録音はスマホのボイスメモなどを活用すれば、今回の授業形式はそのまま使える。コロナ自粛の状況下における対面授業では、音声を伴う活動や接触することを避け

る必要があるため、音声録音は自宅から、ノートは写真をとって画像として提出するといった形で、よりリスクの低い授業活動が可能になる。

3.5 スペイン語Ⅱ：旅行会話（2020年度秋学期）

本稿で取り上げている授業はそれぞれ1コマのみ開講される選択科目であることから、どのクラスでも履修者の習熟度レベルにはばらつきがある（表1）。が、この節で振り返るスペイン語Ⅱについてはばらつきの度合いは段違いである。スペイン語Ⅰを履修しておらず初めてスペイン語を学ぶ学生とスペイン語Ⅰから継続して履修する学生との違いは大きく、さらに2020年度は継承語としてスペイン語を話す学生も2名履修していた。英語以外の外国語を学んだことがある学生も20%おり、どの系統の言語を学んだかにもよるが、英語以外の学習歴の有無も授業活動を組み立てる上では無視できないばらつきとなる。受講生の4分の1が初修者だったため、彼らを対象として初回の授業開始前に、Class Notebook の使用方法と基本の発音などを学ぶ事前説明会を開いた。出られない履修者には Teams の一般チャネル及び Class Notebook のコンテンツライブラリにも資料を提示し、個人チャットでの質問も受け付けた。また1回目の授業では、全体で春学期（スペイン語Ⅰ）の復習をした後、既修者は Form で復習問題を行い、初修者は Teams の会議で発音とあいさつなどの基本を学んだ。

表10に授業概要を示す。「旅行会話」を全体のテーマとし、語彙・文法の基礎も押さえながらも、調べ学習によってスペイン語圏の文化に対する興味関心を引き出し、場面設定をした会話練習で実践力を養う組み立てになっている。

表10 スペイン語Ⅱ 授業の流れ

授業内外	活動
授業時の活動例	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ別のあいさつ：毎回「¡Hola! ¿Qué tal? - Bien, gracias. ¿Y tú? - Muy bien. +飲み物をすすめる」から始まる。各グループの担当者がチームの授業日チャネル上に会議を作成。 ● 前回のグループ会話練習（録画）のフィードバックと復習：授業日チャネルの「メモ」（Class Notebook）を板書代わりに解説し、その後 Kahoot! や Form を使用して復習問題。 ● 新規事項の解説：新出語彙、キーフレーズ（飲食店での注文、道をたずねる表現など）および文法の説明（名詞、不定冠詞、定冠詞、動詞 hay, 動詞 estar, 形容詞） ● 全体練習：「メモ」（Class Notebook）を板書代わりに使用し、場合によっては履修者が書き込む） ● 各自の課題：「クラスノート」で配信。 ● グループワーク：会話練習（録画）。 ● 最後にクラスノートに「本日の授業の感想および質問」を書く。
事前事後課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化についての調べ学習：翌週の会話練習の下地、プレゼン準備（スペインの bar, cafetería, restaurante の違いとそれぞれの特徴・スペイン各地の郷土料理・スペイン語圏の世界文化遺産・スペイン各地の郷土菓子・クリスマス）

これらの授業活動に用いたツールは表11の通りである。Class Notebook を多用したが、履修者が書き込むと名前が出ないため（教員は「表示→作成者の表示」を選べると記入者を確認できる）、対面授業では間違いを恐れて板書に出てこない学生でも、気にせず積極的に授業に参加できるという利点がある。授業中に Class Notebook の課題をやっている間

は、対面授業の机間巡視のように、各学生の取り組み状況を見てまわり、質問を受けたり間違いを指摘したりしながら、すべての学生の理解度をその場で把握することができる(サボっている学生に対してはチャットで注意)。ただし、Class Notebook は同期が遅れることがあり、その場合、学生は課題をやっているのに教師の画面には反映されないということになる。同期の問題があった場合は、学生の画面のスクリーンショットを送ってもらって確認した。また、スマホで受講している学生は Class Notebook が利用できないことがある。この授業では、初回にネット環境のアンケートを行い、スマホで受講する学生がいないことを確認した上で Class Notebook を利用した。

表 11 スペイン語Ⅱ 利用ツール

利用ツール		活動
Teams 各回チャネル	ビデオ会議・チャット	全体会議 ● 各授業日別に作成したチャネルでライブ授業を実施。 ● 活動の指示はチャット欄でも。 グループ会議 ● 会話練習
	Class Notebook	● 本日の予定・資料の配布：板書欄を設けて履修者が書き込めるようにする。 ● 課題の配布
Kahoot!		● 復習や語彙の確認。 ● ライブで行い、途中経過を実況中継し、最後に表彰台もあるのでかなり盛り上がり好評だった。
Padlet		● レストランのメニューを作成する掲示板 ● Map でスペイン語圏の国々を調べたり、世界遺産の場所などを確認し各観光名所について説明を書き込んだりする活動 ● クリスマスカード作成、掲示。
Match the memory		語彙を覚えるために利用。一人でもできるので自習教材としても利用可。

表 11 に示したように、この授業では毎回、基礎練習から発展的な活動までいくつかのグループワークが行われる。レストランの会話（ロールプレイ）を扱った回について、ツール利用も含めて具体的に紹介しておく。

- 文化紹介：スペインの5つの地域の郷土料理を PowerPoint で提示し、最も関心を持った地域の郷土料理を調べ、各自 Class Notebook にまとめる。次の回に最もよく調べている履修者が発表を行う。
- レストランでの会話：全体でモデル会話の練習の後、グループで練習。
- グループワーク（レストランを作る）：レストラン名を考え、5つの地域の郷土料理を参考にしてメニューを考える。各レストランのメニューは Padlet 上に掲示（図6）。スペインに実在するレストランのメニューをみて相場を確認し値段もつける。
- 会話練習：グループごとに客と店員にわかれて、発音や注文の仕方などを確認。
- ロールプレイ（レストランでの会話）：すべて録画。
 - グループを店員と客にわけ、店員はレストラン（グループ会議）にとどまっ

て客を待ち、客は他のグループのレストランを訪れる。

- 客は Padlet のメニューで注文を決める。
- 注文が終わったら、Padlet のメニューに最大 5 つ星で評価をつける。
- 評価の基準は、店員役の対応で、スペイン語の流暢さと客役がセリフに詰まったときに丁寧にわかりやすく教えたかということ。星獲得数に応じて次の学習に関連した報酬あり。
- 全員がすべてのレストランを訪れる。
- 教員の合図で店員と客が交代する。

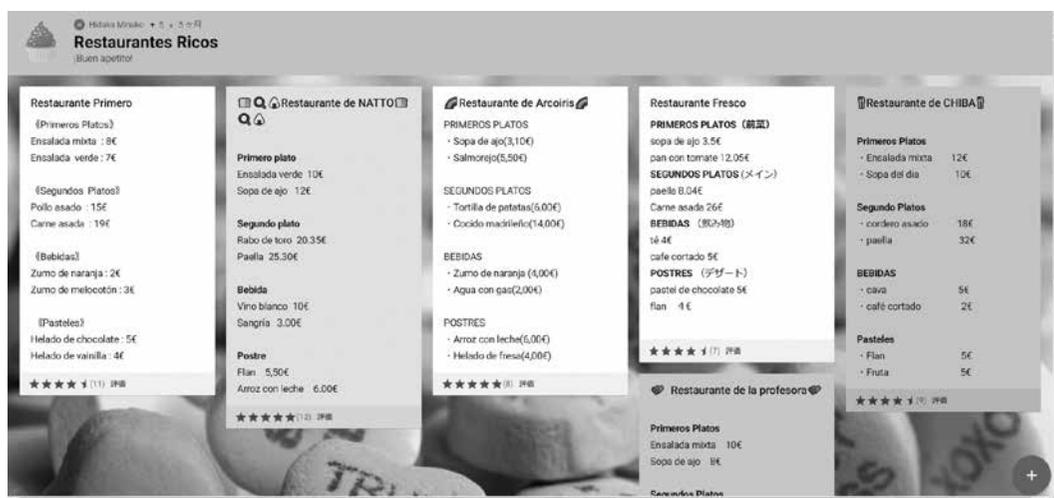


図 6 Padlet で提示した各グループ (レストラン) のメニュー

遠隔授業でも、通常の対面授業と同様に、最大限履修者が活動（発話、練習問題、板書など）する割合を多くするよう授業を設計しており、毎回複数のグループワークを取り入れた。グループワークでの工夫は下記のようにまとめられる。

- 人間関係づくり：最も基本的なものが授業開始時の挨拶の会話である。2020 年度の遠隔授業では、互いの距離を縮めるために、挨拶のほかに多少のおしゃべりもするように促した。
- 固定グループとランダムグループ：春学期の授業アンケートで「グループを固定してほしい」という意見と「グループを固定しないでいろんな人と交流したい」という意見があったことから、秋学期は両方の意見を取り入れることにした。固定したグループを作り、基本的な会話練習をまず固定グループで行い、その後実践として他のグループを回りできるだけ多くの人と会話するという設計である。
- 小グループの効果：通常の対面授業でも、発言をためらう学生が多く、机間巡視の際に教師に個別に質問する傾向がある。小グループにわけることで、互いに疑問を出し合い、教師が登場した時にまとめて質問をするということができた。

- グループ会話の録画：授業中すべてのグループを回ることができないこともあるので、授業後に教師が録画をチェックし、次回フィードバックを与えた。

学生の反応を以下に紹介する。受講生の習熟度のばらつきが甚だしいクラスにおいて、初修者を置いてきぼりにすることなく、習熟度の高い学習者も満足していることが伺える。それぞれのレベルで実践力を向上させるのに、グループでの会話練習や協調学習がうまく機能したと思われる。

- スペイン語Ⅱからの履修でかなり不安でしたが、先生や同じ授業を受けている方々が丁寧に優しく教えてくださりなんとか13回受け切ることが出来ました。
- 最初は他国の言葉を覚えられるか不安でしたが、ゲーム性などもあり毎回の講義で楽しく理解することができました。
- スペイン語を学習するのは初めてですので、始めは不安が大きかったのですが、だんだん楽しみが勝つようになってきました。他の授業と違って、グループワークが多いのと、先生から課題や感想に対してフィードバックがあるのが嬉しかったです。グループワークがあることによって人と会えないことの不安が少し解消されました。たまに画像や音声が固まることがあり、これらは不便だと感じましたが、それ以外で特段困ったことはありませんでした。発表は緊張しましたが、発表する機会をいただけたので、他の授業で緊張しにくくなりました。
- オンラインでも、グループで学生と話す機会があったり、作業したりと普通に授業しているようで楽しかったです。私は、春学期からスペイン語を履修してきたので、もし将来スペインなどに旅行する機会があったら話せればいいと思いました。
- この授業を受けて、スペインについてとても興味を持ち、楽しく学習することができて本当に良かったです。毎授業で新しく増えた知識を日常で活かせるようにこれからも頑張りたいと思います。私が特に授業で楽しみにしていたのはスペインの話で、中でもスペインのお菓子については実際に食べてみたいと思いました。大学の授業がすべてオンラインの中、他の学生と話す機会ができてとても良かったです。
- 一年間スペイン語を楽しく学ぶことができました。特に秋学期は、グループのメンバーと仲良くなることができて授業を充実させることができました。グループ以外の人との会話も楽しいですが、決まったグループがあると仲良くなって授業での悩みやわからないことの相談がしやすいと感じました。先生がひとつひとつの項目を丁寧に教えてくれることで、大きくつまづくことなく取り組むことができました。一年間とても楽しかったです。
- とても楽しく、毎週授業を受けることが出来たのはスペイン語のみんなが楽しくて優しくってとってもいい人たちだったからです。偶然でランダムなグループだったと思うんですけど、とっても楽しく授業を受けられたのは本当にグループとみんなと先生のおかげです！固い授業や課題が難しい授業が沢山あってやる気が出なかったんですが、1年間を通して1番楽しい授業で私のモチベーションでした！
- 他の言語と違ってグループワークによって会話の練習をする事によってよりスペイン語の理解に繋がりました。とても楽しい講義でした。

- この授業がアクティブで一番楽しかったです。同級生との会話の中で勉強できるのも、良かったです。
- DVDで本物のスペイン人が会話している様子を聴くのもよかったが、神経衰弱やKahoot!など、実際に考えてみるというスタイルの授業も良かったです。特にKahoot!が楽しかったです。勝手にグループが割り振られる機能も良かったです。私は今日のペアは、2回とも違う人になりました。
- スペインの街やレストランの雰囲気などが少しわかったので旅行に行ってみたいなと思いました。楽しかったです。
- スペイン語を学ぼうちに一度はスペインの祭などを見てみたいと思ったし、料理も食べてみたいと思った。

最後に、授業方式の変更、特に活動制限付きの対面授業に変更になった場合に、この遠隔授業の設計がどの程度適応できるかを確認しておく。活動制限付きの対面授業でも、グループでの会話の部分を、TeamsでのテキストチャットやPadletでの投稿に置きかえることで、対応が可能である。また、注文はメニューを指さすなどジェスチャーを補助的に用いることも可能である。Class Notebookなどオンラインのツールは制限付きの対面授業でも有効に活用できる。発音の確認はClass Notebookの録音機能を使うことで自宅での課題として与えることができ、調べ学習については当然のことながら、制限付きの対面授業でもそのまま使える。

4. まとめ

ここまで、基盤教育機構で全学部向けに提供している選択語学科目のうち、基礎英語Ⅰ(3.1)、基礎英語Ⅱ(3.2)、中級英語Ⅰ(3.3)、中級英語Ⅱ(3.4)、スペイン語Ⅱ(3.5)について、2020年度の授業実践を振り返った。いずれの授業でも、同時双方向型の遠隔授業において、Teamsのビデオ会議を利用して、ペアやグループでの音声学習・スピーキング活動・コミュニケーション実践を効果的に行うことができたと言える。それらのグループワークは、語彙文法知識の基礎がためや内容理解、異文化理解やコミュニケーションスキル向上(談話的・語用論的要素の理解)など、授業ごとの目標と結びついた様々な学習活動と有機的な関連づけがなされており、そのことが受講生の達成感・満足度の高さにもつながっている。2020年度のような全面的な遠隔環境では、グループワークでのクラスメートとのやりとりは、語学の授業活動としてだけでなく、自宅で1人で学習する受講生の孤立感を軽減する意味でも重要であった。

執筆陣は(それ以外の多くの語学教員と同様に)、2020年度の1年間、遠隔授業におけるICT活用の実践経験を積み、そのノウハウとスキルを活かして2021年度の制限付きの対面授業にも適応できている。本稿で紹介したICTツールは、Teams以外では、GoogleまたはMicrosoftのFormsを利用した自動採点式クイズ、動画ベースのコミュニケーションのプラットフォームであるFlipgrid、遠隔環境でもクラス全体の活動として行えるKahoot!,各自のペースで基礎がためができるDuolingo、手軽に美しくアウトプットを共有できるPadlet、神経衰弱の形式で語彙学習ができるMatch the memory、Teams

内で教材や音声録音課題を出すのに便利な Class Notebook など多岐にわたる。こうしたツール活用などに関する教員間の情報交換は Teams の教員用チームで行っており、Teams は教員コミュニティにとっても欠かせない存在になっている。

最後に、本稿の範囲を超えるが、出席停止となった学生が出た場合など一部の学生の遠隔受講にも、十分対応する用意ができていると言える（実際、すでに対応されている先生方もおられる）。2020 年度の授業実践の経験は、コロナ後も、例えば負傷などで登校できない学生を遠隔受講させるなど、様々な状況におかれた学生の「学びを止めない」ために、有効活用できると考える。

(2021.5.20 受稿, 2021.6.22 受理)

〔抄 録〕

本稿では、基盤教育機構で全学部向けに提供している選択語学科目のうち、基礎英語Ⅰ(3.1)、基礎英語Ⅱ(3.2)、中級英語Ⅰ(3.3)、中級英語Ⅱ(3.4)、スペイン語Ⅱ(3.5)について、2020年度の授業実践を振り返り、同時双方向型の遠隔授業でどのようにICTを活用し、音声学習・スピーキング活動・コミュニケーション実践を実現したか、その様々な工夫を紹介する。いずれの授業でも、Teamsのビデオ会議を利用してペアやグループでの音声学習・スピーキング活動・コミュニケーション実践を効果的に行っており、授業ごとの目標と結びついた様々なICT活用の学習活動とも有機的に関連づけられている。そうしたICTを活用した授業活動・授業設計について、状況の変化への対応可能性の点からも検討を加える。